

課題番号5

基本方針：Ⅱ		課題名：天敵利用技術による野菜の安定生産技術	
対象：管内イチゴ生産者 川東ナス出荷組合、ナス生産者		計画期間：H30～31	
		事務所名：中部農林振興事務所	
普及指導事項	活動内容	活動成果	
①天敵製剤導入によるイチゴの生産安定	天敵利用講習会、展示圃ハダニの発生状況調査 総合的害虫防除検討会 講習会、巡回指導 総合的害虫防除検討会	管内天敵製剤導入イチゴ生産者割合 27% → 42%	
②土着天敵利用によるナスの生産安定		土着天敵利用ナス生産者戸数 4戸 → 10戸	

総合評価(コメント)
<p>A:6名</p> <ul style="list-style-type: none"> ■天敵利用・減農薬は商品の付加価値になります。キャッチコピー等での利用を考えてみては？ ■引き続き農薬だけに頼らない栽培マニュアルを作成してください。 ■総合的に評価できるが、コスト等経営面での試算も必要と思われる。 ■効果のない化学農薬をいくら使用しても、環境を悪くするだけである。天敵の農薬をバランス良く使うことを普及してほしい。 ■今後も天敵利用技術を普及を進めてもらいたい。 ■非常に興味深い課題。・消費者へのPRにも力を入れてはどうか。

普及指導計画への反映状況等
<ul style="list-style-type: none"> ■現段階では、「コピー」によるPRよりも、新技術としての普及、継続取り組みを最優先に普及活動を行っています。今後、高付加価値につながるかどうかにも検討します。 ■今年度、慣行の栽培と比較するためのデータ収集を行っています。生産費や収益性の試算が重要であると認識していますが、病害虫の発生と防除は年次変動が大きいことから、できるだけ多くの事例収集を行っていきます。 ■「バランスよく使う」ためには、天敵温存環境での化学農薬の使用について生産者の正しい理解が必要です。天敵と化学農薬を正しく使っていただけるよう丁寧な指導を継続します。